



**今年も実施します！朝永振一郎記念  
第4回「科学の芽」賞**

附属学校教育局 教授 小林 汎

2006年、朝永振一郎博士の生誕100年記念事業の一環として、筑波大学附属学校教育局が中心となって始まった「科学の芽」賞、今年で4回目を迎えました。

昨年度は、全国21都府県及び海外2カ国（ドイツ、韓国）の日本人学校から、合計1,248件の応募がありました。第1回目645件、第2回目846件、そして第3回目が1,248件と増加しています。毎日新聞社などマスコミ3社の後援、日本物理学会など7学会の後援を受けて実施しています。また、今年初めて、幕張メッセで行われた地球惑星科学連合大会の会場でも宣伝をしました。

昨年は、ノーベル物理学賞と化学賞をあわせて、一度に4人の方が受賞するという嬉しいニュースもありました。

是非、このポローニアを読まれた方は、お知り合いの方に、「科学の芽」賞を広めてください。21世紀の世界は、自然科学が長足の進歩を遂げています。子どもたちが、自然界の現象に“ふしぎ”を感じ、“科学の芽”を育てていくことは今日的な課題となっています。

詳細は、筑波大学のHPから「第4回「科学の芽」賞」をクリックしてご覧ください。



《編集後記》

本号では「附属学校の新たな旅立ち“現在、そして未来へ…”と題しました。4月より阿部新教育長のもと、附属学校教育局も新たなスタートをきりました。本誌の編集をさせていただく中で、附属学校が担うべき役割、附属学校が創ってきた伝統を改めて感じることができました。本誌に原稿を寄せていただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

私も附属学校教育局に赴任してきて1年が過ぎました。この1年間で私は多くの“出会い”があったことを感じています。大学の先生方、各附属学校の先生方、児童生徒のみならず、保護者の方々、局を支える事務の方々…。その出会いは人だけに限らず、本であったり、場所であったり、本当にいろいろな出会いがありました。その中で得られたものから、新しい自分にも出会えたような気がします。

今後遭遇する新しい“出会い”を大事にしつつ、附属学校教育局の発展、附属学校の児童生徒の成長に少しでもお役に立てるよう、私も精進していきたいと思えます。(石川満佐育)



発行日……平成21(2009)年5月31日  
 発行者……附属学校教育局長 阿部生雄  
 発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌  
 ポローニア編集委員会  
 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 電話 03-3942-6800  
 編集委員長……江口勇治  
 編集委員……西川公司・田中輝美・石川満佐育  
 五味貴久子・根本文雄・藤田祐嗣  
 デザイン……スピーチ・バルーン  
 印刷……広研印刷 使用紙:U-Himax mm [日本製紙]

